



地域医療構想と患者支援センター設立

副院長 佐野文明



野 境道路の桜が満開となった4月1日に新元号が発表されました。新しい令和の時代がどのような時代になるのか期待とともに不安も湧いてきます。

皆 様は、「地域医療構想」という言葉を聞いた事がありますでしょうか。団塊の世代が75歳となる2025年に必要となる病床数(ベッド数)を**高度急性期、急性期、回復期、慢性期**の4つの機能ごとに地域で調整するとともに、異なる機能の病院が連携を進め効率的な医療提供体制を実現する取組みです。当院は救命救急センターや周産期センターを有する地域中核病院であり、高度急性期と急性期の入院医療

を担当します。急性期病院では限られた病床を効率よく運用するために、入院前に患者さまの情報をしっかりと把握するとともに、治療、手術、麻酔などの説明、必要な検査、内服している薬剤、栄養状態、筋力などの確認を行う事が重要となります。そうする事で入院後は直ぐに治療や退院調整を開始し入院期間を短くする事ができます。このような取り組みにより当院の在院日数は年々短くなっていますが(図1)、関係する部署が分散し効率的ではありませんでした。そこで、2019年5月に**患者支援センター**を設立し入院から退院までの患者さまの支援を一括して行う予定です(図2)。

患 者支援センターの設立により、これまで以上に患者さまに最適な医療を安全に適切な期間で受けていただける様に努力していく所存です。

図1 平均在院日数

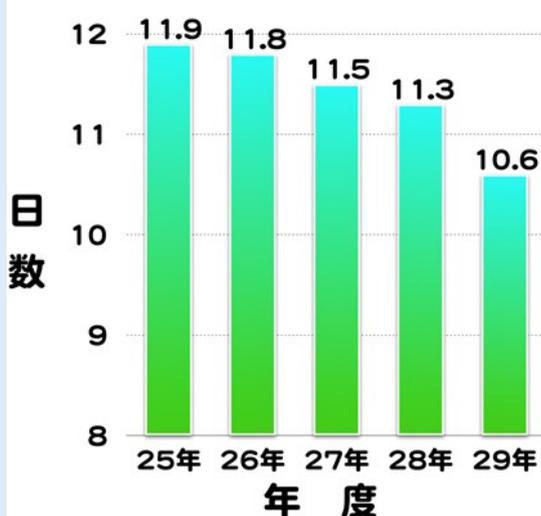
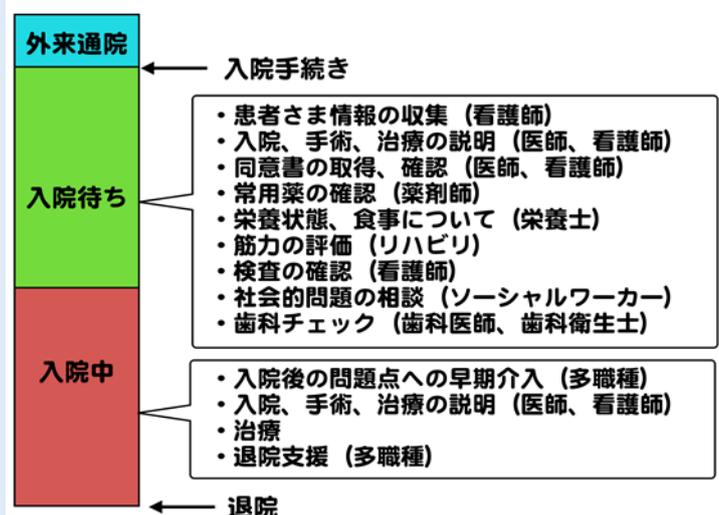


図2 患者支援センター



TOPICS

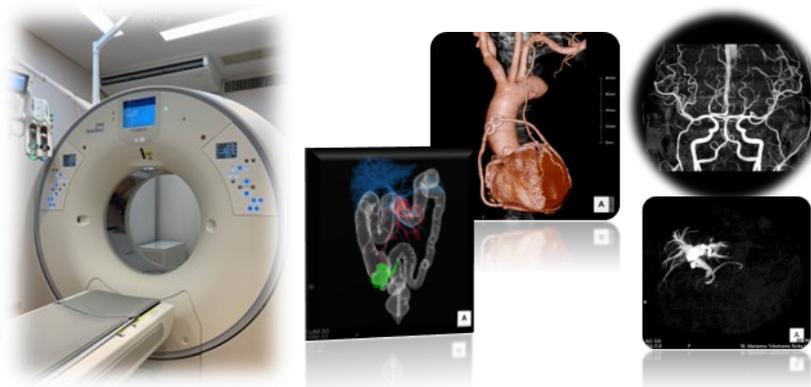
画像診断部からのお知らせ

CTとMRIが新しくなりました！

皆さんこんにちは、画像診断部より耳よりな情報です。昨年秋から年末にかけてCTとMRI装置が新しく更新されました。そこでCTとMRIの違い、従来装置より良くなった点などをご紹介します。そして皆様の健康管理に貢献する各種ドックもごさいますのでどうぞご利用ください。

〈画像診断部 菊地 康隆〉

320列 CT装置



3.0テスラ MRI装置



	CT	MRI
特徴	放射線(X線)を使って主に体の横断像を撮ります。基本的に単純撮影と造影撮影を組み合わせで行います。また3D撮影し、画像処理することで目的に合わせた多様な画像を提供できます。	磁石と高周波を使って体のあらゆる断面像を撮ります。CT同様単純撮影と造影撮影もしますが主に頭部の血管撮影は造影剤無しで撮影します。放射線被ばくはありません。
今回の更新メリット	64列から320列に増え、単純計算で撮影範囲が5倍になりました。よって撮影時間がおよそ1/30に短縮。部位により造影剤が少なくて済みます。被ばく量も減らせます。心臓や血管も拍動の影響を受けずに撮影可能となります。	磁場強度が1.5テスラから3.0テスラになり信号強度が2倍になりました。よって従来と撮影時間が同じなら高精細画像が、従来と同画質なら時間短縮が可能となります。最大の特徴となる造影剤無しでの脳血管撮影は描出能が向上しました。
人間ドック	得意分野である肺ドックを実施。	簡易脳ドック、心臓ドックを実施。

ご存知
ですか？

肥満度の判定～肥満を防ぐために～

＜栄養部 辻利之＞

体重は体調管理のバロメーターの一つです。肥満度の目安としてBMI (Body Mass Index) があります。BMIは、世界共通の計算方法で国際的に用いられています。太りすぎややせすぎは病気にかかるリスクが高まるため、日頃から自分のBMIを把握するのは、健康を維持するために重要なことです。

【BMIの計算式】 体重(kg)÷身長(m)の2乗 = BMI (肥満指数)

肥満度判定基準

BMI	肥満度判定
18.5未満	低体重 (やせ)
18.5～25未満	普通体重
25以上	肥満

日本肥満学会参照

BMIが25以上（肥満）の方は、下記に思い当たる食習慣がありませんか？

「遅い夕食」「夜食」

食べたものをエネルギーとして利用するためには主に副腎皮質ホルモンの分泌が関係しています。このホルモンの分泌は早朝時に分泌量が多くエネルギーとして効率よく利用されるため日中は体脂肪として蓄積される率は低くなります。しかし、夜間はこのホルモンの分泌量が低くなるため、食べたものはエネルギーとして利用されるより体脂肪へと蓄積される作用が強くなります。また、食事をした後、体が温まり、エネルギーを消費することを『産生熱』といい、昼間のほうが高くなることが分かっています。夕食や夜食の食べすぎは、食べた分のエネルギーが利用されずに体脂肪へと蓄積されやすくなるため、昼間に比べて、肥満になりやすくなります。

「まとめ食い」

まとめ食いをすると脳の『余ったエネルギーを脂肪として蓄積する』という機能が働きます。1日1回だけ食べる方法や食事をぬいてまとめ食いするなど、食事の回数が少なくなるほど太りやすくなります。

「早食い」

私達の食欲は、脳の視床下部にある食欲中枢によってコントロールされています。食べ物が消化・吸収されると、その成分が血液の中に入り、血液成分の濃度が変化します。この変化が食欲中枢に伝わると、満腹感がおこり、「もうおなかがいっぱい」という信号が伝達され、食欲にブレーキがかかるのです。この信号が出されるには、20～30分かかるとは、この食欲中枢の調節機能が働く前に早食いをすると必要以上に食べてしまうこととなります。

1日3食、規則正しく、食事はしっかり噛んで、
ゆっくりと食べるように心掛けましょう。



おしらせ



診療科名の変更

2019年4月1日より、当院診療科の名称を下記の通り変更致します。
ご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

神経内科



脳神経内科

消化器内科



消化器・肝臓内科



初診紹介制

当院は原則として「初診紹介制」となっています。初めて受診されるときは、地域医療機関（かかりつけ医等）からの「紹介状」をお持ちください。
初診時に予約制を実施している科もあります。詳しくは、ホームページまたは、総合案内、地域医療連携係へご確認下さい。



初診時紹介予約制

- 下記の診療科では、初診紹介予約制を行っています。
「血液内科」「リウマチ・膠原病内科」「腎臓・高血圧内科」「呼吸器内科」
「消化器・一般外科の乳腺内分泌外来と甲状腺外来」「眼科」「消化器・肝臓内科」
- 「初診時紹介予約制」実施診療科の予約方法
紹介状を受け取られてから、地域医療連携係へお電話でご連絡ください。
受付時間：平日9:00～16:00、土曜日9:00～11:30（休診日を除く）
※ 緊急時（又は当日受診ご希望）には、ご紹介元の医療機関の先生からのご連絡をお願いします。（受入れ体制や病床の空き状況確認等が必要なため）

